Vol. 130号

2003（平成15）年
10月1日発行

Colony Tokyo
コロニーとうきょう

社会福祉法人 東京コロニー
〒165-0023
東京都中野区江原町2-6-7
TEL 03-3952-6166
FAX 03-5952-6664
http://www.tocolo.or.jp/
（法人本部　事務局）

アートビリティギャラリー 7　作者　東　裕晶　『ぞう　'02』（詳しくは11頁をご覧下さい。）

時評「冷夏と真夏並みの秋」
法人の主な動きから
私の提案月間実施について

法人本部・コロニー中野・コロニー印刷所・IT事業本部・デジタルメディアセンター・アートビリティ・トーコロ情報処理センター職能開発室（〒165-0023 中野区江原町2-6-7）・**葛飾福祉工場**（〒125-0042 葛飾区金町2-8-20）・**立石工場**（〒124-0012 葛飾区立石8-50-1）・**トーコロ情報処理センター事業部**（〒162-0051 新宿区西早稲田2-2-8）・**コロニー東村山印刷所・コロニー東村山・コロニー東村山第二印刷所**（〒189-0001 東村山市秋津町2-22-9）・**大田福祉工場**（〒143-0015 大田区大森西2-22-26）・**浜松町工場**（〒105-0022 港区海岸1-4-17）・**トーコロ青葉ワークセンター・トーコロ青葉第二ワークセンター・トーコロ青葉第三ワークセンター**（〒189-0002 東村山市青葉町2-39-10）・**国分寺戸倉寮**（〒185-0003 国分寺市戸倉1-21-9）・**東久留米第一氷川台寮・東久留米第二氷川台寮**（〒203-0004 東久留米市氷川台2-31-22）

時　評

「冷夏と真夏並みの秋」

理事長　勝又 和夫
かつまたかずお

一、異常気象

八月の旧盆の時期、今年も事務所で仕事をしていましたが私の記憶にはない寒さに加え、雨の日が続いていました。テレビのニュースでは、十月下旬の気温だとして各地からの冷害の危惧が伝えられていました。

この原稿は、担当者に催促されながら十八年振りの阪神タイガースの優勝の瞬間を横目に筆を執っていますが、中秋の名月の時期にもかかわらず、今年一番の暑さを記録したと聞かされながら、夏と秋が逆転したような今年の気候に、わが国のこれからの変化の予兆のようにも思え、身の引き締まる思いを改めてしています。

それにしても世界各国の今年の夏は、ヨーロッパの異常高温に代表されるように、地球的規模で異常気象が発生しており、後日のためにいくつかの事柄を記しておきたい気持ちにさせられました。

二、滋賀特区構想と企業の障害者雇用率公表

こうした日常の中で私が最も関心を持ったのが支援費制度に対する滋賀特区構想と障害者の義務雇用制度における企業の障害者雇用率の公表でした。

特区構想の内容は、月額となっている施設支援費を日割りでも可とすることや、入所施設の昼・夜間の使い分け、グループホームでの日割利用を認めること、さらにはこれらを可能にするために定員の二割までの増員受入を可能にするというもので、このことによって、より利用者本位の制度と施設整備費を要さない形での二割の利用者の施設利用が可能になるとされたものでした。

滋賀県内においては、事業者等当事者がまったく参加しない有識者を中心とする委員会の審議によって、要望がなされたものとして国に対し提案がなされ、私たち関係者は後日その内容を聞くというもので、その あり方（その人に影響する事柄については、検討段階から協議に参加することができる等の原則）の問題点や制度変更の問題点（施設の運営に重大な影響が生ずることや、グループホームにおける個人の居室を勝手に他人が利用することの理不尽さ等）についてセルプ協として、直ちに国に対して要望書を提出しました。

一方、この九月十日の朝日新聞朝刊に掲載された二〇〇〇年六月一日現在の企業の障害者雇用状況の記事については、ある種新鮮な感じをもって読みました。一般企業等において、障害者雇用率が伸びない中で、情報開示裁判を受けての公表であり、名だたる企業の実態を見る中で私たちの役割の大切さと今後に向けた変化の兆しを予感させるものでした。

三、国の来年度予算の概算要求

来年度の厚生労働省の予算は、自然増九千億円に対し、二千億円しか認められない極めて厳しいものとして概算要求が発表され、この中で障害者関係予算は、かろうじて自然増を含め守られるものとなっていました。特に心配されていた支援費関係についても十二ヶ月ベースで現行水準が守られるものでした。

過日、これらの内容を国の担当者から聞く機会がありましたが、その中では当法人が先駆的に手掛けてきたＳＯＨＯ事業を制度化する「バーチャル工房支援事業」が全国二十ヶ所でモデル実施の可能性が出たことや支援費における重度加算が通所施設にも認められる可能性がある等、苦しい予算の中でも担当者の方々の頑張りがあったのだと思わされるものでした。ただし、前項で述べた「施設整備費」や「施設から一般就労への移行」といった、これからの福祉のトレンドに影響しそうな項目では、ドラスティックに大胆に制度が動いて行くのではないかと思わされる内容も含んだものと思わされました。

四、国政選挙―三年の空白期を前に

九月二十日の自由民主党の総裁選挙後の日程として、翌日の二十一日には内閣改造、十月十日に衆議院の

解散と十一月九日の投票。そして、来年七月の参議院の選挙が予定されています。

これらについてはまだ不確定な要素もありますが、いずれにしても来年の参議院の選挙後、特別なことが起きない限り二〇〇七年秋までは、国政レベルでの選挙はないことになります。二〇〇五年、二〇〇六年、二〇〇七年度のこの三年間の予算は国政選挙を意識することなく編成されることになり、構造改革の具体化として何があっても不思議ではない状況に私たちは突き進むことになりそうな予感がしています。

小泉内閣の二年半で改革の種は蒔いたと言われていますが、私たちは改めてその種と言われるもののひとつひとつを検証し、どんな芽が出てくるのかを予測し、充分な備えと覚悟と打解策を考える必要があるのではないでしょうか。

夏は暑く、秋は涼しいというだけではない季節の中に私たちはおり、あの阪神が優勝した年に私たちは今いるのだと思います。

ひろば

中野工場

日帰り旅行

六月二十一日土曜日、梅雨の晴れ間の超快晴に恵まれて、バス二台に分乗した五十七名が元気よく日帰り旅行に出発しました。まず、バスの中では、フタバベーカリー特製おやつパンも振舞われ、おなかの準備は万端です。

目的地は埼玉県加須市にある「むさしの村」。埼玉県にお住まいの方は、「子どもの頃の遠足で行ったことがある」と思い出す、歴史のある遊園地です。車いすで利用できるトイレもあり、バリアフリーとまではいえませんが、さまざまな障害のある人たちがそろって出かけるには、優しい施設の一つかもしれません。

むさしの村では、利用者の父兄も加えた四人～五人の少人数のグループに別れました。グループごとに話し合い、好きな乗り物に乗ったり、ゆっくりと話し込んだりと思い思いの時間を過ごすことができました。

待ちに待った昼食は「桜御膳」という盛り合わせのお弁当と、加須名物の手打ちうどん。打ちたてゆでた手でぷりぷりのうどんを、思う存分堪能しました。

いつもは、早めの集合、遅い帰着

時間で参加者の負担が大きいという日帰り旅行の問題点を、定時出発定時帰着を目指して解決できたことは、利用者に優しい旅行の一つのスタンダードとして考えることができるかもしれません。

（営業企画室　板橋義也）

大田工場

厚生労働大臣表彰を受けました

厚生労働省・日本障害者雇用促進協会による「障害者雇用促進月間」の取組みの一つとして、九月二日に東京国際フォーラムにおいて優良事業所・優秀勤労障害者の表彰式が行われ、そこで玉木製造部長が優秀勤労障害者として厚生労働大臣表彰を受けました。入社以来二十七年間、特にここ十二年程は製造部長として先頭に立って大田工場を引っ張ってきた努力が認められた形となりました。

玉木部長のモットーは「自分の障害を意識しないこと」。「街に出れば階段があって上がれないときに、ああ自分は障害者だなと気づくことはあるのですが、普通に動けるなかでは障害者という意識はないのです。ですから完全にバリアフリーとなっていて、障害者の働く環境が整っている、福祉工場という現在の職場の中では障害を意識したことはありません。徐々にではありますが、公共施設や駅などもバリアフリーになってきています。早く障害を意識しない社会ができたらいいなと思っています。」また、仕事については「一人ひとりに目的を持ってもらい、毎年テーマを決めて仕事に臨むという形で仕事を進めています。それが評価に反映するというシステムです。これにより仕事は与えられたものをこなしていくという姿勢から、より意欲的になっていけばいいと思っています。年齢が高い人も増えていますので、看護師さんの力を借りて健康管理を上手に行いながら、他の印刷会社に負けない製品を作って行きたいと思っています。」

玉木部長のすごさは自分で障害を意識しないだけでなく、相手にも障害者であることを意識させないところにあるのかもしれません。自身が障害を持つゆえに他の人では気づかない細かい心配りをしながら、今後も大田福祉工場をグングン引っ張っていってくれるものと期待は膨らんでいます。

（総務部長　清水功子）

葛飾工場

暑気払い

去る七月二十九日（火）毎年恒例の夏の始まりを告げる葛飾柴又の花火大会に合わせて、葛飾福祉工場の暑気払が、金町工場の宿舎屋上にて行われました。今年の七月は気温も上がらずうっとうしい日々が続き、当日の天気が心配されましたが、気温はどんどんよい条件となり、平日にもかかわらず、七十名近い人がさほど広くない屋上が人で埋まりました。

用意した生ビール、お酒、手作りの焼きソバ、焼きとうもろこし他オードブル、枝豆等うまいものを食べお酒を飲みながら、日頃は金町工場と立石工場の事業所が分かれている為、お互い顔を合わせることが少なく、近況や情報などを話し合い、会場のあちこちに人の輪ができ、花火を見ながら大いに盛り上がりとても活気あるものでした。世間一般では、厳しい経済環境ですがほっとする有意義な一夜でした。

（縫製管理課長　小林孝之）

東村山工場

「東村山市障害者就労支援連絡会」発足

東村山市では、よりよい障害者就労支援施策を行っていくために、平成十三年から二年間にわたって検討会を設置し取り組まれていました。その間、東京コロニーも検討会に加わり、地域で支援することを実現するためには、広く関係団体との協力・連携が必要不可欠との集約がされ、ようやく今年度連絡会発足に至りました。連絡会のメンバーは、あきつの園（障害者就労及び授産団体）、東村山市共同作業所連絡会（障害者就労及び授産団体）、社会福祉法人東京コロニー（障害者就労及び授産団体）、東村山市商工会（商工業団体及び事業者）、ハローワーク立川（関係行政機関）、多摩東村山保健所（関係行政機関）、都立清瀬養護学校（関係行政機関）、ふれあいの郷（その他）、障害者地域自立生活支援センター（その他）の九つの団体で構成されています。

二〇〇三年七月十一日に第一回目の委員会が開催されました。東村山市には平成十五年四月一日現在、障害者就労施設として、身体障害者施設が八施設、入所で八十名、通所で一七一名、知的障害者施設は十施設で通所二一一名、精神障害者施設は八施設で一六三名、社会事業授産施設が二施設で八十名、合計七〇五名の障害者が利用可能となっています。市には、身体障害者数四、一八一名（内三、六八一名が在宅、五〇〇名が施設）、知的障害者数七一五名（内成人四〇四名が在宅、一四〇名が施設、一七一名が児童）で合計四、八九六名の障害者が在住しています。住民人口が一四三、六八〇名ですので人口割合でいうと三・四％となります。これらのことをふまえて連絡会で何ができるのかということを意見交換しました。施設以外の就労の場として企業内雇用も考えられますが、市内の企業数が四、一五〇で障害者雇用率については実態が把握されていないということですから、商工会の協力を得ながら、まず、市内における障害者雇用実態を把握すること、就労支援システムの一環として協力・連携を図るためにネットワーク化の検討等を話し合いました。課題は山積みですが、「障害者が実際に地域で心身ともに充実した生活ができる」このことに視点を置いて役割を果たす委員会を目指したいと思います。

（所長　中村敏彦）

ＩＴ事業本部

週刊文春で紹介されました

週刊文春では「人を助ける仕事」という記事を連載しており、ホームヘルパーやＮＧＯ職員など人と関わる仕事をしている方にインタビューをし、その仕事に就くまでの経緯や現在の仕事の内容、あるいは今後の夢などについて紹介をする企画です。記事をお書きになっているのは、オウム真理教や教育問題などでご活躍をされているライターの江川紹子さんです。

この度、東京コロニーで働いている人ということで、この連載に取り上げていただくことができました。五月十五日に江川さんが東京コロニーへお出でになり、二時間ほどのインタビューを受けました。インタビューでは、幼い頃なりたかった職業から始まって、福祉の仕事に関心を持ったきっかけや、仕事上での苦労、そして今後も目標など、とても幅広い範囲に及びました。

私自身、東京コロニーに転職する前は電機メーカーで機械設計の仕事をしていましたが、会社で障害のある方と接する機会が増えたこともあり、福祉の勉強をして今の仕事に就きました。現在は、ＩＴ事業本部職能開発室において、在宅での就労を目指す方々に対して、スキルアップのお手伝いや、在宅ワークの仲介などを行っています。

今回インタビューされた記事は、週刊文春の六月十九日号に掲載されました。江川さんはとても感じの良い方で、テレビなどで見るのとはまた違った印象を持ちました。

またとない機会をいただいたことに感謝するとともに、これを励みに今後も一生懸命仕事に取り組んでいきたいと思っています。

（職能開発室　鶴田宏樹）

青葉ワークセンター

暑気払い

長い梅雨があけた八月一日の金曜日、今年も青葉ワークセンターの暑気払いがおこなわれました。

今年はこれまでの室内で着席しておこなう形式から、夏祭りの縁日風のものに変えてみようということに決め互助会のメンバーで準備をはじめました。自由に遊びながら飲んだり食べたりするスタイルのため、広い屋外が良いということで一階の駐車場を会場に選びました。

飲み物コーナーや料理もメニューごとに屋台風のコーナーをつくり、それぞれのひとが好きなものを自由に楽しめるように考えてみました。遊びコーナーには射的、輪投げ、くじ引き、スーパー・ボールすくいなどオールド世代には昔懐かしい、また若い世代にはどこかの温泉場を思い出させるような出し物を企画してみました。

当日の午後、厳しい暑さの中で会場作りが始まりました。互助会のメンバーと事業課の応援メンバーが、まず机やいすを館内から運び出し飲食コーナーを設置し、つぎに遊びコーナーをつくっていきます。やがて料理も運ばれ、縁日のはじまりです。

遊びコーナーの射的や輪投げには食品などの景品もあり、チケットを握りしめたひとたちの行列もできました。いろいろな景品を獲得出来たひとたちにはきっといいおみやげになったことでしょう。

料理は唐揚げ、やきそば、フランクフルト、オープンサンドが各コーナーに山のように並べられたのですが、ここも終了時にはすべてなくなるほどの盛況ぶりでした。

飲み物コーナーでは、当日の厳しい暑さのためかペットボトルのジュースは若干ぬるくなってしまったようです。生ビールも少し出が悪く、これも残念なことに少しぬるめでした。これらの反省点は残りますが、参加者のみなさんには1時間半程度の比較的短い縁日をおおむね楽しんでいただけたようです。

またこの暑気払いの企画についてのアンケートを後日参加者全員に配り、感想等も記入してもらいました。その結果からも多くのひとが楽しめた様子がうかがえました。このアンケート結果は来年の暑気払いの企画時に役立てていくつもりです。

（営業課長　三和信一）

生活寮

東久留米市障害者雇用促進パネル展に参加

今年度から、東久留米市障害者雇用促進協議会の正式な委員として、東京コロニーから出席することになりました。この協議会は、市内に在住する心身障害者の雇用促進など、就労対策を総合的に図るために設置されたもので、市内の障害者団体、企業、養護学校、ハローワークなどから十五名が委員となっています。

昨年四月から東久留米市内に知的障害者地域援助事業（グループホーム）として東久留米第一・第二氷川台寮を開設しました。法人としましては、グループホームの運営のみならず、就労支援事業を行ってきた実績をもとに、東久留米市内で少しでもお役に立つことができればと考えております。

毎年行うパネル展では、市内の作業所などの活動の様子を広く市民の皆様に知っていただくことを目的としており、今年は九月五～十三日、市役所の一階ホールで展示がありました。氷川台寮としても参加させていただき、昨年度に引き続き、企業や授産施設、作業所などで働く入居者の方々の生活を支援する役割を紹介させていただきました。グループホームのスタッフが、写真やコメントで寮での生活の様子を紹介したパネルを作成した他、入居者の皆さんが余暇活動で作成した作品の数々を展示しました。

来年度は、入居者の皆様の就労場所との連携など、一歩務進んだ内容をご紹介できればと思っております。

（福祉事業本部長　加藤留美子）

法人の主な動きから

中野・東村山 営業部門統合のためのプロジェクト

一、プロジェクト発足の経緯

昨年「東京コロニーの運営に関するあり方検討会」が今後の法人運営に関する提言をおこないましたが、その中で印刷事業に関する運営課題が指摘されました。「印刷事業を中心に事業所毎に同一法人でありながら同一ユーザーに対し受注を競い合う事態が起こっている現状は、今後の経営改善を図る上で大きな問題である。法人全体として営業の統合化などを視野に受発注事業の整合性を検討していくことが必要」、「管理部門の効率化や統合化を図ることにより間接コストの削減を課題とすべき」などがその内容でした。

本プロジェクトは社会就労事業本部が自らの事業課題としてこの提言を受け止め、改革に取組むためにスタートさせたものです。

プロジェクトのメンバーは社会就労事業本部経営会議メンバーに、関係する事業所の部長を加えた構成とし、八月中に事業本部長に答申、九月の所長会でご意見をいただいた上で、下半期から新しい体制をスタートさせるスケジュールで検討を重ねました。

法人全体としての営業統合化や印刷事業の統合化が最終目標であるとすれば中野、東村山両工場の一体運営化はそのための第一段階として位置付けられます。東村山第二印刷所の開設は両工場の主力生産部門を統合するものでしたが、さらに営業部門を一体運営化することは実質的に両工場を一つのものとして運営することに直結するので、まず経営改革の全体像を固めた上で段階的に両事業所の統合化を進めることを前提に検討をおこなうことにしました。課題が多岐にわたったため、「経営改革の全体プロセス」がまとまったのは九月中旬になりました。

二、統合化のステップ

統合の第一段階は十一月一日付けで実施することになります。現状は事業所単位の営業活動が中心になっていて巨大市場に対する戦略的なアプローチができにくく、多くの中小印刷企業同様に売上高が下降線をたどっている現実があります。中野工場、東村山工場を一体運営することで地域特性を生かした展開ができるよう営業部門を再編します。また提供できるサービスを縦横に組み合わせ、顧客ニーズに適合した提案をおこなうことができる体制を新たにつくります。さらに中野、東村山両工場の製造部門を一つの工場として管理できる組織とします。生産管理部門は独立させて権限を付与し、工程コントロールの機能を向上させ、営業や顧客からの問い合わせやクレーム対応能力向上、外注手配、資材手配などの効率化を進めます。

第二段階は今年度内に準備をおこない来年度スタート時点で実施することにしますが、その柱は総務部門、営業事務部門、生産管理事務の相互乗り入れにより、事務作業を可能な限り一元管理し、単に施設単位でのサービスではなく、事業本部全体としての利用者支援の体制をつくることです。

（社会就労事業本部長　武者明彦）

東京コロニーにおける 第三者評価機関による評価受審

社会福祉法の改正・支援費制度の導入等に基づき、本年四月より東京都の障害者施設への第三者評価システムが本格実施されることになりました。

これは第三者の評価機関が専門的かつ客観的な立場から、サービスの内容や質、事業者の経営や組織のマネジメントの力等を評価するものです。そして評価結果は各事業所の見やすい場所に掲示すると共に、財団法人東京都高齢者研究・福祉振興財団が運営する「福祉情報総合ネットワーク」において広く利用者や事業者に情報提供されます。これによりサービスの内容を利用者に見えるものとし、サービス提供事業者の質の競い合いを促進させ、利用者本位のサービスシステム構築を目的とするものであります。

東京コロニーとしてもシステムの意義を尊重し、本年度においてコロニー東村山印刷所（身障入所）及びトーコロ青葉第二ワークセンター（知的通所）の二つの施設について第三者評価を受審することを決定、指定評価機関の中から、「社会福祉法人東京都社会福祉協議会」を選択し契約を取り交わしました。

初年度ということもあり都内の受審希望施設が多く、当法人としては四施設の受審申し込みをしましたが、日程調整等の結果二施設のみ実施することとなり、青葉が八月から東村山は来年二月からスタートします。

初めての受審であり、評価機関・施設側共に要領を得ない点も出てくることが予想されますが、準備のための協議・事前アンケート・現地調査・評価結果の作成までおよそ三ヶ月程度を要します、利用者・ご家族・従業員の皆さんにも、より正確な評価が実施されるようご協力をお願いします。

評価は「受ける」のではなく、「自ら実施する」という観点からとらえ、現在の状況を客観的に認識することにより良い点はさらに伸ばし、足りなかったところは積極的に改善努力する事で、今後さらに利用者の方に安心して利用していただける施設を目指していきたいと思います。

本格導入初年度ということから、①本年度評価項目（毎年度見直しあり）の中に、授産活動項目とりわけ東京コロニーの理念のひとつである「より高い工賃を目指す」ことについての項目が乏しい。

②当法人のように多くの施設・事業を運営する場合は受審する為の費用負担があまりにも大きい。

等今後の課題もあるものとおもわれ、引続き関係機関との協議をしていきたいと思います。

（事務局長　神野敬夫）

社会事業授産施設の廃止に伴う土地の分筆

コロニー中野の施設廃止により、従来施設として使用してきた中野工場旧館の土地と建物について、基本財産から運用財産への移行申請が七月三十一日付で東京都より承認されました。

これに伴い一筆となっている中野工場の土地を分筆するため、実測作業を実施し、定款変更の準備を進めています。

運用財産となる土地・建物については今後法人管理とし

① 従来賃貸ビルに分散入居していた、法人本部事務局・公益事業等を集約し法人全体の経費圧縮をはかる。（実施済み）

② 「中野区就労支援ネットワーク」の中核法人として、環境ビジネスを中心とした共同受注システムを構築し、区内の障害者の雇用拡大をはかる場の提供。

③ 一般企業への就職率向上のため、民間企業とのタイアップによる、障害者雇用促進モデル機能の試行の場の提供。

等により、有効活用を図っていきたいと思います。

新たな法人ビルのスタートとして皆さんのご理解とご支援・ご協力をお願いいたします。

（事務局長　神野敬夫）

コロニーとうきょうVol.129号の5ページに掲載いたしました葛飾福祉工場の記事で、「専用配送センター」の記述は、「優先して利用できる配送センター」の記述の誤りでした。ここに深くお詫びいたします。

上期の研修から

教育研修委員会では、法人全体として開催する研修はできるだけ上期に実施する方向でスケジュールを組みました。比較的業務に余裕のある夏までに間に研修を開催することで、多くの方に参加していただくためです。

上期に三つの研修を実施しました。

・新人研修（および事業所見学会）

四月二十三日（水）、スマイルなかのにて。当法人に一年以内に入所した従業員、授産施設の利用者の方を対象として行い、三十六名（内利用者の方は二十一名）が参加しました。東京コロニーの一員として知っておくべきことを得るための一日研修です。

従業員と利用者合同で、理事長の講話、各事業所の概要の他、各事業所で講師の役割を分担して障害の基礎知識について学びました。最後の二時間は、従業員のみが「従業員行動規範」、「利用者支援マニュアル」について学ぶ場としました。

新人研修　障害の特性について

また、恒例の事業所見学も行ないました。今年は、六月十八日、二十五日、七月二日の水曜日ごと三日間で実施しました。

・管理監督職研修

六月十七日（火）、戸山サンライズにて。管理職、監督職を対象に行ない、二十四名参加しました。小松専務に「東京コロニーの新たな福祉事業について」と題し、生活寮の事業について話していただき、外部講師として、日本女子大学の久田則夫先生をお招きし、「利用者主体のサービスを担う職場のリーダーのあり方と役割」というテーマでお話しいただきました。久田先生から、リーダーの役割とは何か、福祉新時代に「求められる職員」としての資質を兼ね備えているか？など、事例にもとづく明確な講義をしていただきました。その後、事前に参加者各人が記入してきた業務改善をテーマにしたレポートを元に、グループディスカッションと発表も行いました。

下期は、フォローアップ研修として、参加者各人がかかげた業務改善計画を日々の仕事の中でどう実行していくかを目的とし、プロジェクトを発足し、その成果を来年度の管理監督職研修で発表するという企画をすすめています。

管理監督研修　グループごとに発表しました

久田則夫先生

・ビジネスマナー研修

七月十五日（火）、スマイルなかのにて、二十五名参加。講師は、総合教育コンサルティングの吉村政代先生で、法人全体のビジネスマナー研修は昨年に引き続き二度目となります。顧客満足度（CS）とは何か、電話の応対、来客応対等、マナーの基本を、豊富な経験も含めて話してくださり、とても楽しく学ぶことができました。

また、今回は、最後の一時間に今や仕事上の伝達ツールとしてなくてはならないものになったメールのマナーについて、職能開発室の堀込真理子課長に話してもらいました。

これらの研修は、他事業所との交流の機会にもなり、気持ちの面でも日常の業務を離れてリフレッシュできる効果もあると思います。

下期には、一月に知的障害者への支援について、研修を実施する計画があります。

（教育研修委員会　加藤留美子）

吉村政代先生

ビジネスマナー研修
電話のかけ方実習

「私の提案」月間実施について

東京コロニーの苦情解決の活動を通じ、これまでも折に触れ報告してきたように、これからの福祉サービスにおいては苦情がきちんと表出される風通しの良い職場や施設づくりがとても大切であると考えます。

そして、提出された苦情に対しては、十分に検討し、適切に対応していくことは当然ですが、同時に、苦情解決の仕組みだけではなく、普段お感じになっていることや具体的な提案などをしていただくような機会を日頃から設けていくことの必要性を実感しています。

そこで、苦情解決第三者委員会では、「私の提案」月間を実施して、東京コロニーの利用者の皆さん、そのご家族の皆さん、そして従業員の皆さんなどから広く提案を募集することにしました。具体的な提案はもちろんのこと、困っていること、東京コロニーについての新しい発見など、多くの提案がなされることを期待しています。

ところで、この活動は、あえて期限を区切って「月間」としました。苦情解決の仕組みの中では、常時苦情を受け付けていますが、これとは別に、集中的に東京コロニーのことを振り返り、その将来を考える期間になってほしいと願ったものです。苦情解決の活動と合わせて、誰もが快適に活動できる職場や施設づくりの一助になれば幸いです。

（苦情解決第三者委員会委員一同）

「私の提案」月間

ーより良い職場・施設・法人をめざしてー

苦情解決第三者委員会

（＊1テーマごとに1枚使用してください）

年　月　日

テーマ（主要なテーマに○印をつけてください）

1. 仕事を行う上で　2. 生活環境等について　3. 規定・規則等決めごとについて

4. 人間関係について　5. その他（　　）

提案など

あなたの立場を教えてください	
（○印）	1. 利用者
	2. 利用者の家族
	3. 従業員等

氏名

（無記名でも結構です）

利用者支援のための記録活用ツール
「サポート２」のご紹介

当法人のコロニー印刷所が財団法人日本社会福祉弘済会の助成を受けて開発した「ケース・サポート・システム」のバージョンアップ版にわかりやすいマニュアルがつき、このほど販売されることになりました。（ＣＤ－ＲＯＭ付7,000円）

システムのバージョンアップは職能開発室の鶴田係長、マニュアルは主に中野の小川ケースワーカーが執筆し、東村山の井上ケースワーカーも事例を執筆しています。このシステムは、日誌を入力し、利用者の個別のケース記録を自動生成するもので、初めの開発は当法人の職能開発室の指導により「重度身体障害者在宅パソコン事業」（東京都）の修了生が行いました。

当法人の各事業所で使っており、とてもシンプルで使いやすいシステムです。

（販売　筒井書房　　tel03-3993-5545
fax03-3993-7177）

アートビリティギャラリー 7

『ぞう　'02』
東　裕晶

■アートビリティ

1986年障害者アートバンクとして設立。「才能に障害はない。障害者の才能は、アートの分野において健常者とかわらない」を基本姿勢に活動を続けています。登録作家約400名、登録作品約4,000点、昨年１年間の使用実績は約330点、年間の作品応募は2,000点を超えます。2002年４月アートアートビリティと改称。

この作品は、『第1回キラキラっとアートコンクール』で優秀賞に選ばれ、その後、アートビリティ審査会で合格を果たしアートビリティ登録作品となりました。

『キラキラっとアートコンクール』は、三菱地所株式会社が主催し、アートビリティとこどものエコムが協力をする障害児のための児童画コンクールです。

このコンクールの特徴は、応募作品のすべてがこどものエコムで公開されること、優秀作品の中からアートビリティ登録へのチャンスが開かれているということです。

東くんは、みごとに優秀賞からアートビリティへの登録を果たした期待の新人です。

東くんのアートビリティ登録は、次世代の才能を応援するという『キラキラっとアートコンクール』の主旨がみごとに実を結んだこと、そして、次世代を担うアートビリティ登録作家を発掘するという意味においても、たいへん意義のあるものでした。

稀にみる色彩感覚の豊かさ、ユーモアとセンスを感じさせるシンプルな造形の美しさ。

何より、圧倒的なインパクトを見る者に与えてくれる作品です。

思わず見入ってしまう力のある絵です。

東くんは、大阪の『あとりえ　が・らんふ』（障害の有・無に関わらず、いろいろな人があたりまえに参加する『美術教育で武装しない」絵画教室）に通い、そこでのびのびとたくさんの力作を生み出しています。

今年は個展も開催し、好評を博しました。

これからのアートビリティを担う期待の星、東くんの活躍にぜひ期待をしてください。

（アートビリティ事務局　岡嶋　明美）

ご　寄　付　の　お　礼

日本大昭和板紙株式会社様より、平成十五年四月一日の日本大昭和板紙グループの発足を記念し、ご寄付をいただきました。四月三十日、贈呈式が行われ、堀川社長よりご寄付をお受けしました。ご支援に対し心より感謝申し上げます。

三菱商事株式会社のＯＢである田岡義計様より、当法人に対し多額のご寄付をいただきました。永年に亘りご支援をいただいております三菱商事株式会社環境室よりご紹介いただいたものです。

八月十一日にご家族と共に中野にある本部事務局を訪ねて下さり、施設内も見学してくださいました。社会福祉事業に活かしてほしいという田岡様のご厚意に深く感謝しつつ、いただきましたご寄付は当法人の社会福祉事業のために有効に使わせていただきます。

沖電気工業株式会社様より、当法人の印刷事業部門に対し、名刺印刷機を、またＳＯＨＯ支援事業に対し、ご寄付をいただきました。沖電気グループの社員の皆様の一〇〇円募金からご寄付をいただいているものです。当法人の事業へのご支援を誠に感謝いたします。

東京コロニーのホームページ

東京コロニー メインページ
http://www.tocolo.or.jp/

コロニー中野・コロニー印刷所
http://www.tocolo.or.jp/nakano/

デジタル メディアセンター
http://www.tocolo.or.jp/dmc/

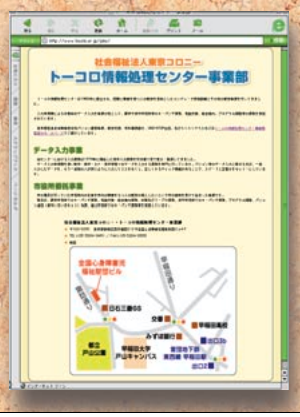
IT事業本部事務局
http://www.tocolo.or.jp/syokunou/it/

コロニー東村山印刷所・コロニー東村山
http://www.hig.tocolo.or.jp/

トーコロ情報処理センター職能開発室
http://www.tocolo.or.jp/syokunou/

アートビリティ　旧 障害者アートバンク
http://www.artbility.com/index.html

東京都大田福祉工場
http://www.tocolo.or.jp/oota/



トーコロ情報処理センター事業部
http://www.tocolo.or.jp/joho/

トーコロ青葉ワークセンター
http://www.tocolo.or.jp/aoba/

東京都葛飾福祉工場
http://www.fireman21.net/

コロニーと語ろう　◎編集／社会福祉法人 東京コロニー　〒165-0023 東京都中野区江古田2-6-7 Tel 03-3952-6166 Fax 03-3952-6664　発行人／勝又 和生　◎印刷／コロニー印刷